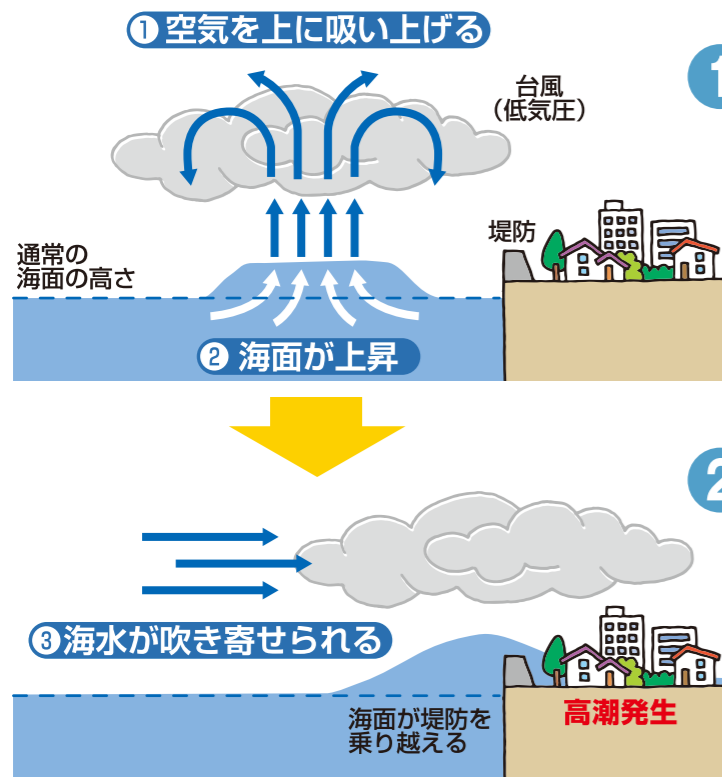


高潮発生メカニズム

高潮は、台風や発達した低気圧の接近により潮位が高くなることで、海水が内陸部に入り込み、浸水被害を起こします。主な発生原因は次のとおりです。



1 気圧低下による海面の吸い上げ

ストローで吸うと水が吸い上げられるように、気圧が下がると、海面が吸い上げられて短時間のうちに急激に潮位が上昇します。台風や低気圧の中心気圧は周辺よりも低いため、中心付近の空気が海面を吸い上げ、潮位が上昇します。気圧が1 hPa下がると、潮位は約1 cm上がります。

2 強風による海岸への吹き寄せ

台風などによる強風が海から陸側へ吹いた時、海水が海岸の方へ吹き寄せられ、海岸付近の潮位が異常に上昇します。風速が2倍になると、吹き寄せ効果は4倍になるといわれます。

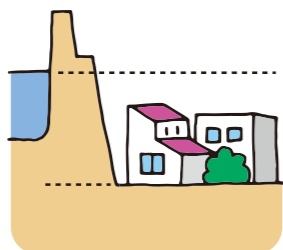


高潮時の危険な場所と時間

次のような場所や時間は特に気を付ける必要があります。このような場所では避難する意識をもっておきましょう。

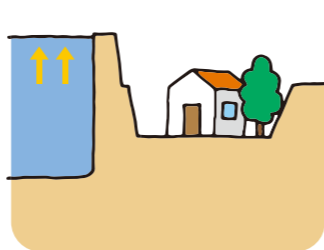
海岸近くの低地

満潮時の海面の高さより、標高の低い土地は、堤防が決壊すると海水が流れてきて、浸水被害を受ける可能性があります。



大潮の満潮時

台風の最接近時に高潮が発生しやすく、大潮の満潮時には、最も潮位が高くなります。両方が重なった時、高潮のリスクは最も高くなります。



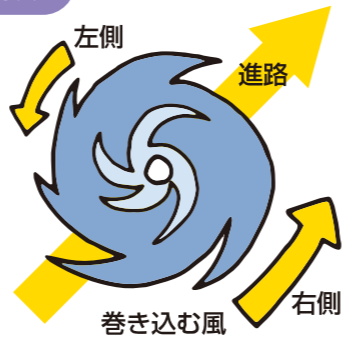
湾の奥や河口部

湾の奥は吹き寄せられた海水が集まり、潮位が上がります。また、河口では高潮と洪水の危険が高くなります。



台風の進路との関係

台風は進行方向の右側の方が風が強く、風による吹き寄せ効果により高潮が発生しやすくなります。

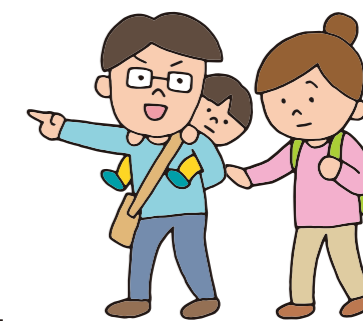


洪水浸水想定区域とは？

財田川や柞田川が氾濫した場合に浸水する区域(洪水浸水想定区域)が、香川県により想定公表されています。

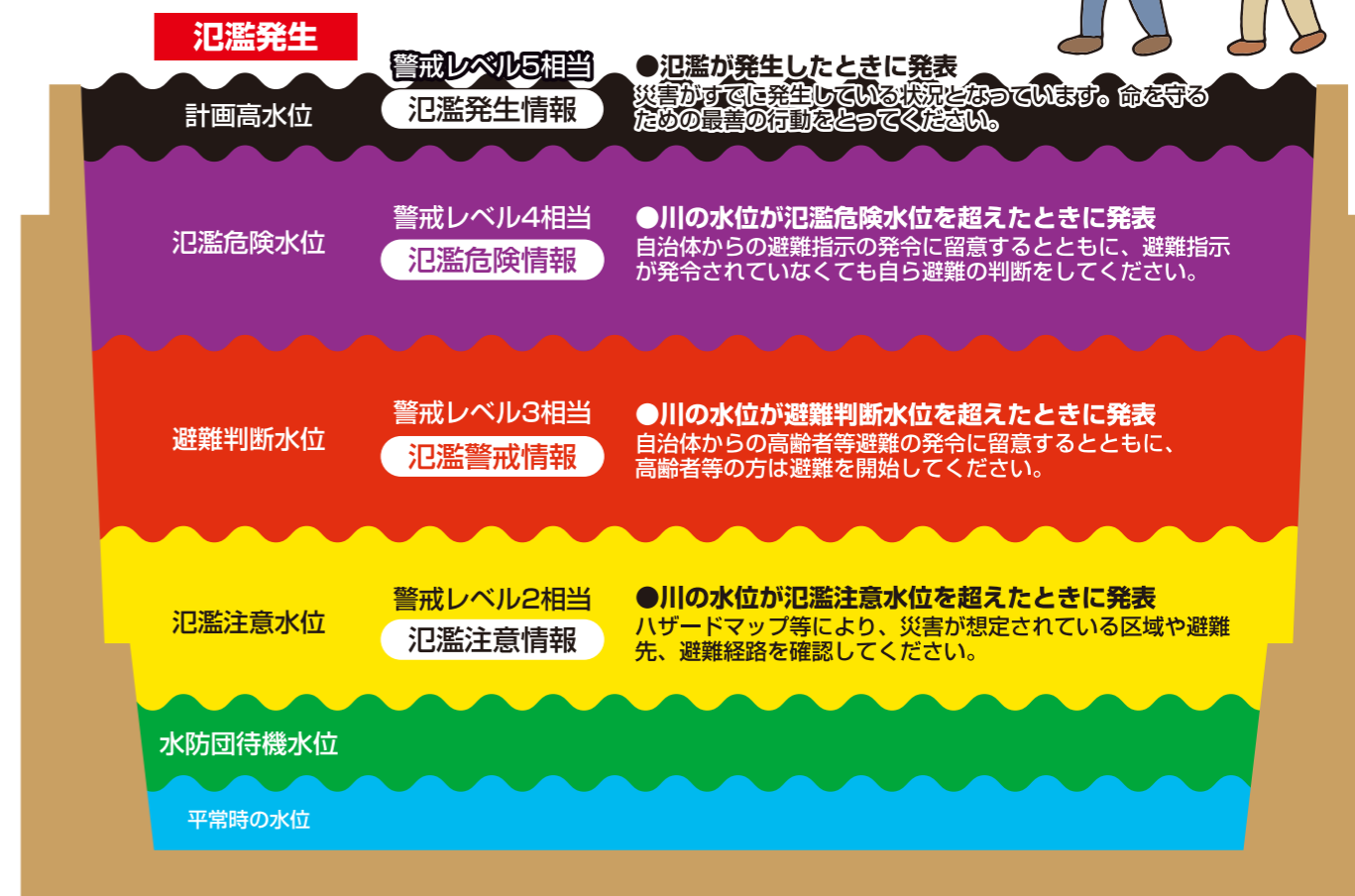
浸水想定区域や浸水の程度は、あくまでも想定です。浸水の程度や範囲は雨の降り方や地形、隣接する河川の状態などにより変化するため、大雨の際に、常にこのハザードマップのような浸水が起こるわけではありません。

想定よりも広い範囲への浸水や深い浸水、浸水想定区域に含まれていない区域への浸水が発生する場合がありますので、ご注意ください。



水位情報と避難行動

洪水予報は、市民が自らを守るために必要で重要な情報です。氾濫が発生する前に避難を完了しましょう。



観測所	財田川	柞田川
水位情報	稲積橋	黒淵橋
計画高水位	3.90m	4.60m
氾濫危険水位	3.40m	3.65m
避難判断水位	3.15m	3.35m
氾濫注意水位	3.00m	2.80m
水防団待機水位	2.20m	2.20m